



神金公民館だより

第147号
2022年
6月1日

5月になり地区内ではあちらこちらで牡丹や菖蒲が咲き出し、美しい花姿に季節が春から初夏へと進んでいることが感じられました。

しかし、今年は5月になってから雨が降る日が多く、5月中旬までの降水量は去年の倍以上となり、気温も低めとなっています。報道では、梅雨のリハーサルのような天気が続きそうだとのことです、ちょっと気になります。

果樹園農家の方々にとっては、摘果作業などで忙しい毎日となってくるので、天候が落ち着いてくれるといいのですが…。



公民館利用について

5月になっても県内における新規感染者数は高止まりとなっているようで、実効再生産数も1以上で増加傾向となっています。また、高齢者施設等での集団発生事例もいくつか報告されている現状です。

神金公民館においては、市の新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに基づいての開館を継続してまいりますので、ご協力をお願いします。

◆利用人数については、次の人数を厳守。

[1階ホール]：50名 [2階和室]：20名

※コーラスやカラオケなどは、上記人数の半数とします。

◆利用後は、次の3つを提出。

①使用管理日誌 ②利用チェックリスト・同意書

③利用者体調報告書

◆館内における飲食は禁止。

公民館利用申込み用メールアドレス

※QRコードを利用してください→

子育てサロン

毎月第3火曜日に神金公民館和室にて「子育てサロン」が開催されています。主任児童委員の方々が準備し、乳幼児を抱えるお母さん方が集い、情報交換をしながら楽しいひとときを過ごしています。

気軽に立ち寄ってホッとできる、そんな出会いの場・きっかけの場にしていただきたいということです。



神金地区老人クラブ連合会 いこいの会

4月28日、神金地区老人クラブ連合会「いこいの会」が、神金小学校体育館で開催されました。

コロナ禍の中、家の中にいる機会が増え、運動不足による健康面が気になります。そこで、「年を取ってからの幸せとは」と考え、カラオケ・歌・踊り・ゲーム等を楽しみながら運動不足解消や仲間づくりの交流の場として企画しました。



神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に、昭和52年から平成9年まで延べ42回にわたり「神金の歴史」と題して執筆し寄稿して下さっていました。

令和になった今、神金で生きる者にとって、この地で生活した人々の足跡を鮮やかに蘇らせ、知恵や遺産・心意気を学び、心の大きな後ろ盾や糧になればと願い、公民館だよりで「神金の歴史」を紹介していくこととしました。

原稿は、「金」「道」「山」「青梅街道」「新青梅街道」「神金村と東京市との行政訴訟」「郷土の人」と題して、それぞれ数回ずつ執筆されています。

金 一

神金に人の住んだ跡は、下小田原の原の京から出土の石器などから原始時代先住民族が住んでいたと想像される。

次いで縄文式・弥生式土器が下切の殿林、上原、甘利等から出土しているのでもここにも人が住んでいたと想われるのである。

その後奈良時代（750）から平安時代初期（800）頃と推定される鍛冶遺構（タタラ）が前記下小田原の原の京から発掘されたが、このあたりでは当時米が作られていたことが粃の発見によって立証された。この頃には定住して稲を作り鳥や獣や魚をとって生活していたらしい。

この頃、裂石山雲峰寺は行基上人によって建立されたと伝えられている。また、神金の歴史と切り離すことができないものに、黒川金山がある。総称して黒川金山と言うが、黒川とは三条の上流、泉水谷の奥で鶏冠山のふもと一帯を言うのである。金は昔から一之瀬高橋（両沢、山陰とも言う）部落全域から採掘されたが、特に黒川から純度の高い良質の金が多年に亘り採掘されたので黒川の名が代表されたが、藤尾、龍喰、三の瀬、牛玉院平、笠取、高橋、落合全域にまたがっていた。

黒川金山は大同三年（808）に採取が始まったと伝えられているが立証できるものはない。（次ページに続く）



原之京鍛冶遺構
(塩山市史より)

神金の歴史

一之瀬高橋から金を採ったと伝えられている有名人が数人いる。その一人三枝守国（下萩原に平城を築き北御殿を本拠としていた）は、承和年間（840）に下小田原稻荷原から重川の水を引き入れ中萩原を経て城の堀に満たして敵に備えた。昔は柏原御用水と称し途中川筋にての使用は禁止された。現在小田原橋の南を西に流れる堰を言う。

安田義定（甲斐源氏の祖新羅三郎義満の孫）は長承三年（1224）に生れ武勇に優れ、今の山梨市小原に館し峡東一帯を領有し鎌倉幕府創建に功績があった。一之瀬高橋にある放光山高橋寺に金の採れることを祈願したところ、たちどころに大量の金を得たので大いに帰依し、後に菩提寺を松里の藤木に移し高橋山放光寺と名付け、元暦元年（1184）に建立した・踊石子供遊園地の脇のお堂にある本尊は安田義定を祭っており將軍地藏尊と言う。なお下小田原の福蔵院は義定の館跡と言われている。

武田信春（武田家十代の祖）の父信成は向嶽寺を建立した。千野に館を持ち塩山・勝沼をはじめとして峡東を領していた。一之瀬高橋の金を採るため柳沢に移り住む。たまたま病のため柳沢（三窪）に於て歿す。応永二十年（1422）、遺命により千野館跡に一山を建てこれに葬り、柳沢山慈徳院と称し現存している。

武田信虎、信玄、勝頼、徳川家康、柳沢吉保（北巨摩郡武川村柳沢に生まれ、五代將軍綱吉に厚く用いられ幕臣として最高位の大老（現在の内閣総理大臣）に昇進し、宝永元年（1704）甲斐十五万石の領主となる）落合の御屋敷平は吉保の子甲斐守吉里の二男松平刑部少輔安道が館跡と推定される。近くに刑部岩もある。青梅街道に接して黒川金山に約八畝の地にして黄金沢等を採掘したと伝えられている。

これらの人々は歴史上有名な人であるが、何れもこの金を有効に利用して天下に名を残したが、金と言うものが古今を通じて如何に力があり、貴重なものであるかは言うまでもないことである。

武田信玄が金脈を辿り地下に坑道を掘り採鉱する以前は、川に流れる砂金をネゴザを用いて採取したものである。この採取法は昭和二十五、六年頃も東京都水源林事務所の職員の監視の目をかすめて採っていたことを筆者も知っている。金山の閉鎖によって採鉱に従事していた人々は一之瀬高橋に残る人と塩山方面と丹波方面に新天地を求め下山する人に分かれた。

神金へも上萩原鍛冶屋組を中心として移住した。金山神社もあり組の名前も鍛冶屋組と名付けたことから相当多数の人が移り住んだものと想像できる。